動物科学部通信

Vol.18

令和3年
4月

新年度が始まり、令和3年度動物科学部も活動開始

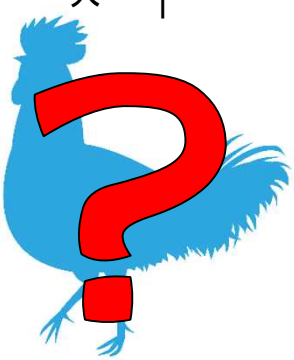
4月になり、新年度が始まりました。動物科学部では、新たに新入生を仲間に加え、活動を開始しました。新入生に限らず、2、3年生から参加する人もあるので、動物科学部に興味がある人はぜひ参加してみてください。

大きな活動としては、プロジェクトの県大会、JGAP認証審査、第5回和牛甲子園です。そのほかにも、本校産畜産物に貼るラベル作成など、新しい取り組みがたくさんはじまっていきます。

活動	詳細
プロジェクト県大会（分野Ⅲ類） 6月17日　佐屋高校	昨年12月の校内大会を突破した豚チームが出場します。焼酎粕の活用についての研究に加えて、新たな研究も開始していきます。
JGAP認証審査 10月中旬目標	豚JGAPの維持審査に加え、肉用牛での初回審査に挑戦します。すでに勉強会を重ねていますが、挑戦したい人は今からでも参加してみてください。
第5回和牛甲子園 1月頃	昨年度はオンライン開催でした。今年度、どのような開催方法になるか未定ですが、ウシは順調に育っています。昨年度は取組評価部門で入賞できたので、連続入賞を目標に頑張ります。

豚だけでなく鶏も新品種を導入します

今年度もGW明けに鶏のヒナがやってきます。いつもは、名古屋コーチン、白色レグホーン、ロードアイランドレッドの3品種を導入していますが、今年度はさらに加えて、「アローカナ」という品種の鶏を導入することになりました。卵といえば、白色や茶色の殻がほとんどですが、アローカナは、薄く青みがかった卵殻の卵を産むといわれています。卵の味も、とっても美味しいそうです。どんな卵なのか、どんな鶏なのか、興味がある人はヒナが来る前に調べておくといいですね。どんな成長をするのか、動物科学専攻生が卒業研究で調査を実施することになっています。



あたたかい春。

過ごしやすい季節になっています。寒さが苦手な子豚たちも、保温箱から出てのびのび過ごしています。農業科、農業・施設園芸科のみなさんは、季節に応じた家畜の管理方法も身につけていきたいですね。大切なのは、「観察」です。「人にとって」ではなく、「動物たちにとって」暖かいのか、寒いのか、様子を観察するだけでなく、ちゃんとエサを食べているか、寄り添って寝ていないかなどいろいろな視点から観察をしていきましょう。家のペットも同様です。言葉を話せない動物が不快にならない環境づくりをしてあげましょう。